

カウンセリングのお作法

第二十八回

CONカウンセリングオフィス中島 中島(水鳥)弘美



家族との信頼関係をどう築くか〜基本姿勢をふりかえるⅡ〜

理解をして受けとめる

今回は、家族面接において、家族との信頼関係を築く重要性について、カウンセリングのお作法第七回に続いて、話をします。

さまざまな家族面接のスタイル

家族面接は、ひとりのカウンセラーが、母親と子どもなどお会いする親子の面接、夫婦やカップルの面接、そして、父親、母親、子どもなどの家族複数と同時に面接をするスタイルがあります。もちろん、家族の困りごとについて、たとえば母親が一人来所されて面接をすることもあります。家族を視野に入れて家族支援をする面接です。

教育、医療、社会福祉などの領域で、人の支援にかかわる仕事の場合は、何か支援を必要としているご本人だけでなく、そのご家族にも視野をひろげて、理解をし、支援する必要があります。ご本人よりも、家族に対してより支援が必要であることも多くあります。

初回面接の重要性

今回は子どもについての母親の相談です。

「うちの子いうことをきかなくて、困っているのです。子どもは二人いて、上の子は男の子で九才、下の子は女の子で九ヶ月です」

九才と九ヶ月の子どもさんのお母さんであれば、毎日あわただしく生活されていることが想像できます。

「九才と、九ヶ月のお子さんですね、それで、上のお子さんが」

「はい、上の子が言うことをきかなくて」

そこで、次の支援者の対応はどうでしょう、適切でしょうか。

「いうこと、きかないのですね、九才の子どもってそういうところありますね、あんまり

気にせずに、おおらかに、ぜひ、父親にも子育てに協力をしてもらいましょう」

適切なコメントのように、感じられるかもしれませんが、すぐに対策を示すのは要注意です。

なによりも、**理解して受けとめ、対策はあと**

焦っている親御さんに限って、どうしたらいいですが、いつごろ解決しますかと畳みかけるようにきかれるかもしれません。

「下の子どもさんが九か月で毎日お忙しい中、上のお子さんがいうことをきかなくてお困りなのですね、それで、もう少し様子を聴かせていただけますか」

と、母親の心境も理解しながら受けとめることが肝心です。限られた時間内に、ご家族の様子をうかがって、全体像を把握し、受けとめるように心がけます。対策はそのあとです。

家族面接のスタイル

夫婦 カップル面接



親 面接 母 父



親子面接 母と子 父と子
家族面接 家族 父母子



「うちの子、いうことをきかなくて困っています」

→ 子どもってそんなところあります もっとおおらかに

→ 父親にも子育てに協力してもらいましょう

すぐに対策を示すことは避けましょう

→ 「上のお子さんがいうことをきかなくてお困りなのですね」

子育ての大変さについて状況を理解し受けとめましょう



家族との信頼関係をどう築くか〜基本姿勢をふりかえるⅡ〜

家族理解 家族の行動パターンやルールに注目する

養育者や母親を支える

専門家に相談をすると、すぐに良い方法を教えてくれると思っっている人もいます。一方で、何力所かに相談に行き、

「子育ては周りの人に助けてもらいなさい」
「もっと肩の力を抜いて、大丈夫ですよ」

などと親の態度を改善することを求められ、親の子育てのつらさをわかってもえなかつたと感じる場合も考えられます。子育ての相談で来られた場合は、困っているお母さんをも、しっかりと支える必要があります

それでは次に、家族で面接に来られたご家族について考えてみましょう

おなかが痛くて学校に行けない

太郎君(仮名)は、おなかが痛くて学校に行けないという小学校二年生の男の子です。ご両親とともに医師の紹介で相談にやってきました。

病院の検査では、腹痛の原因になるような病気は認められなかったということです。

ご家族の様子です。

面接の申し込みは母親からでした。

座り方は、母、子、父の順番で子どもをまん中にして着席

入室の順は、母が面接室に入り、母にくっついて太郎君が入室、最後に父が入り、二人が椅子に座ったのを確認して父が着席。

↓たとえば、この家族の全員着席までの行動から家族のどのようなことが予測できるでしょうか。いくつかの可能性を考えてみましょう。

家族理解の手立てに役立つ情報は、初回面接で話をきかせていただく前から仮説をたてることができます。家族の行動のパターン、とくに、どのようにして物事が決定していくのかのプロセスや、情緒的なつながりなど、こうかなあかなと、考えながら、お会いします。

初回は、安心して話をさせていただくことがで

きるか、継続して面接を続けることができるかどうか、とても重要な意味を持っています。

最初にあいさつなどをしたあと、

「電話で少し様子をうかがっていますが、今日ここで、どんな話し合いができればよいと思っておられますか？どなたからでもどんなことでもけっこうです、お話しください」

などといった、本題に入ります。

どなたが一番に、話し始めるのか、そのとき別の家族の様子から推察できることは何か？それぞれの家族の言語的、非言語的なコミュニケーションを受けとめます。

家族全員とかわる

面接がはじまってすぐのうちに、

「太郎君、おなかは、いまはどう？痛くなったりしたらすぐに教えてくださいね、」

などと、家族ひとりひとりにできるだけ、言葉をかけます。

このようにしてご家族と少しずつ関係を築いていきます。

どんな家族だと想像しますか？

家族の行動のパターンやルールから理解をする



→次の家族の行動からどのようなことが考えられるだろうか
いくつかの可能性を考えてみよう

おなかが痛くて学校にいけないということで、小学校2年生の男の子
とご両親が病院の先生の紹介で、相談にやってきました

座り方 母 子 父 の順番で着席

家族面接の申し込みは母親

まずは、母が面接室に入り、母にくっついて太郎君が入室、最後に父
が入り、二人が椅子に座ったのを確認して父が着席して、面接がスタ
ート

父親の心境は？ 母親の心境は？ 小学校2年生男の子の心境は？

『家族面接の最初、できるだけ早い段階でひとりひとりとかかわる』

ことばかけの例

お父さんですか お母さんですか よろしくお願ひします

太郎君、いま、おなかはどう？ 痛くなったりしたらすぐに教えてくださいね

きょうはどういったことで来られましたか？

どなたからでもお聞かせください これからどうなったら良いと思いますか？



家族との信頼関係をどう築くか基本姿勢をふりかえるⅡ

家族理解 家族構成からわかること

もうひとつ、別の家族について考えてみましょう。

家族構成は

- 父 五十四歳 会社員
- 母 五十歳
- 長女 二十四歳
- 長男 十一歳 小学五年生
- 二女 九歳 小学三年生
- 長女の夫 二十八歳 会社員
- 長女の長男 三歳
- ペット ネコ

七人とペットの家族です

ペットの存在が家族に大きく影響していると考えられる場合は、家族構成のなかにペットも含んで考えることもあります

家族の特徴を家族構成から理解する

大家族のこのご家族の特徴はどのようなところがあるでしょうか。

家族構成図を作成しながら、どのような事実を確認しておくべきか、整理しましょう

家族の特徴をみるときには、誰と一緒に生活をしているのか、

年齢が分かっている場合はそれぞれが何歳か年齢差、男女比、学生、社会人など
第一子、第二子が誕生したときそれぞれの家族の年齢はなど

家族のこれまでの歴史をたどってみることもや今後、例えば、お父さんが定年退職する六十歳のころ、子どもたちは何歳かなど、家族の未来の状況を想像しながら、理解を深めます

あなたはカウンセラーです

小学校五年生の長男がなかなかいこうことをきかなくて困っているというご両親から、相談がありました 家族構成を確認します

母と長男について注目すると、お母さんが五十歳、子どもが十一歳ということは、母親が三十九才前後のときに生まれた子どもさんということが分かります。父と長男は、父親が四十三歳前後で誕生です。

そして、長男の上には第一子である長女がいて、現在二十四歳、ということは、長男と長女との年齢差が十三才です。きょうだいの年齢差が大きいです 長女の夫と長女の子どもも共に生活をしています。

とくにこのあたりに特徴がみられます。長男と二女は二歳違い、長男と二女が誕生したころ、お母さんはとても忙しかったと想像できます。たとえば、それまでずっと一人っ子だった長女は、弟ができてどうだったかな?などと想像します。

ご家族にお会いしてお聞きするだけでなく、家族構成図から事実を読み取ることが可能です

このように一つずつを確認していきます。

大家族 どんな家族だと想像しますか？

家族構成から考えてみましょう

家族構成

父 54歳 会社員
母 50歳
長女 24歳
長男 11歳 小学5年生
二女 9歳 小学3年生
長女の夫 28歳 会社員
長女の長男 3歳
ペット ネコ



CON 子さん 心理カウンセラー

家族全体を理解することの大切さを再確認しましょう！